

イルミ隊が居るみたい

代表者 増田知也（工学B 3年）
構成員 前山恵理（工学B 3年） 林健太郎（工学B 3年） 茶園千恵子（工学B 3年）
久保章（工学B 3年） 佐藤拓馬（工学B 3年）
来栖孝明（工学B 3年） 佐野成太（工学B 3年）
崎村祥伍（工学B 3年） 繩田順（工学B 3年）
三宅一敬（理工M 1年） 宅野和大（理工M 1年）
山根政紀（理工M 1年） 玉井千絵（工学B 3年）

1. 本プロジェクトの背景、目的

1.1 背景

ときわ公園（宇部市）では冬に TOKIWA ファンタジアというイベントでイルミネーションコンテストが毎年行われている。そこで、私たちは人々を感動させることのできる作品を製作してイベントを盛り上げたいと思った。その方法として、イルミネーション作品や、今まで誰も見たことのない新しいものに挑戦しようということで「イルミ隊が居るみたい」を立ち上げた。

1.2 目的

学部教育で学んだ知識を活かし、世界一大きなポストを製作やイルミネーションコンテストに出展する作品を作成する。現場の「ものづくり」や大学外との機関の接触によって社会に必要な経験、知識、臨機応変能力の向上を目指す。最終的にはイルミネーションコンテストを盛り上げることを目的とする。具体的な内容は、①理論の実践、②社会人基礎力の向上、③地域との連携の強化の3点である。

2. 活動実績

本活動は、ギネス記録に挑戦、イルミネーション作品製作、その他について行った。その内容は以下の通り。

2.1 ギネス記録に挑戦

①設計～製作（10月下旬～11月中旬）

「世界一大きな郵便ポスト」のカテゴリでギネス記録更新を目指した設計～製作をした。宇部かたばみライオンズクラブ、宇部市郵便局、市役所などの支援を受け、高さ 7.18m の世界一大きな郵便ポストを完成させた。製作では設計通りに中々ものごとが進まなく、臨機応変な対応が求められた。



ポスト設計



骨組み製作



骨組みの裏返し



ペンキ塗装

②ギネス記録挑戦イベント（11月18日）

世界一大きな郵便ポストのギネス記録挑戦を宇部かたばみライオンズクラブ、宇部市郵便局等の協力の元に行なった。来場者に見守れる中、製作した郵便ポストの大きさの計測、郵便の投函、郵便局職員による配達などのイベントを行なった。



認定プレート貼り付け



ポスト計測



手紙投函



イベント終了

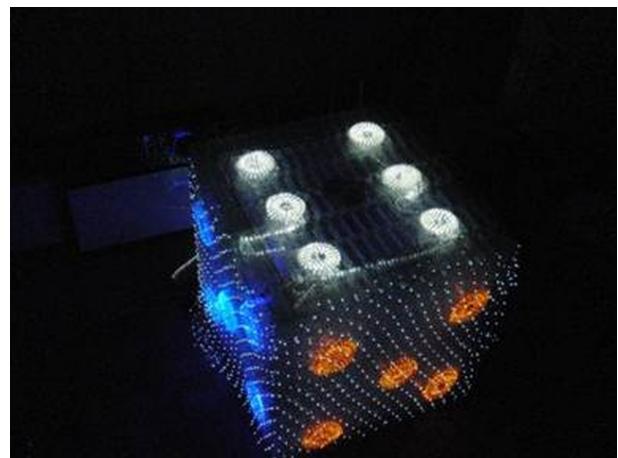
2.2 イルミネーション作品製作

①電子サイコロ製作 (10月中旬～11月上旬)

イルミネーションコンテストに出展する作品として、電子サイコロの製作をした。これは、サイコロをモチーフとした1辺2mの立方体のイルミネーションオブジェである。ペットボトルを使い製作し、LEDライトで作られた賽の目は、ボタンを押すと点灯パターンが変化するといったパターン設計、回路設計を行い、電子回路を作製した。



電子サイコロ製作



電子サイコロ完成

②イルミネーション設置 (11月中旬～12月上旬)

電子サイコロを大学から、ときわ公園に運搬し設置を行った。また郵便ポスト周りをペットボトルやLEDライトで装飾した。その他にも、ときわ公園の噴水池周りの道や木をLEDライトで装飾した。



電子サイコロ設置（常盤公園）



ポストイルミネーション



イルミネーション装飾

③イルミネーション撤去 (1月中)

イルミネーション作品の撤去を行った。



イルミネーション撤去



電子サイコロ撤去

④イルミネーション洗浄・整理 (2月中旬～3月上旬)

使用したLEDライトを洗浄及び整理を行った。



イルミネーション洗浄

2.3. その他

○点灯式・学生交流会 (12月1日)

TOKIWA ファンタジア 2012 のイルミネーションコンテストの企画開催に携わった。コンテストに参加する大学のイルミネーションオブジェの設置を連携して行った。点灯式には10校の大学・高専が参加し、点灯式後は他大学の学生との交流会を行った。イルミネーションオブジェの設置作業では、物品の貸出表の利用や細かな役割分担により、効率的な作業ができた。



イルミネーションオブジェ設置



福島大学作品



熊本大学作品



鳥取大学作品



交流会の様子

3. 成果報告

平成 25 年 3 月 29 日現在の新聞報道、テレビ報道、ラジオ放送の一覧を表 3, 4, 5 に示す。

表 3 新聞報道一覧

| 掲載日 | 曜日 | 分類 | 新聞の種類 | 掲載面 | 記事のタイトル |
|---------|----|----|-------|--------|--------------------------------------|
| 9月 1日 | 土 | 広報 | 広報うべ | 第 08 面 | TOKIWA ファンタジア「イルミネーションコンテスト」への出展者を募集 |
| 11月 13日 | 火 | 新聞 | 宇部日報 | 第 01 面 | 世界一のポスト製作 常盤公園で夢のチャレンジ |
| 11月 19日 | 月 | 新聞 | 朝日新聞 | 第 35 面 | 郵便ポストでかつ 世界一めざし山大生ら作成 |
| 11月 19日 | 月 | 新聞 | 宇部日報 | 第 01 面 | 巨大ポスト完成 |
| 11月 22日 | 木 | 新聞 | 宇部日報 | 第 02 面 | 世界一大きな郵便ポスト造る |
| 11月 22日 | 木 | 新聞 | 山口新聞 | 第 14 面 | 幻想的な光の世界 |
| 12月 3日 | 月 | 新聞 | 宇部日報 | 第 01 面 | 光の衣装をまとい夜の常盤公園幻想 |
| 12月 6日 | 木 | 新聞 | 山口新聞 | 第 16 面 | 常盤公園イルミネーションで彩る |
| 12月 12日 | 水 | 新聞 | 宇部日報 | 第 02 面 | 世界一大きなポストに誓う |
| 12月 18日 | 火 | 新聞 | 宇部日報 | 第 01 面 | 未来につながる 7 色のトンネル |
| 12月 19日 | 水 | 新聞 | 宇部日報 | 第 01 面 | 800 本のペットボトルに色付け |
| 12月 20日 | 木 | 新聞 | 宇部日報 | 第 01 面 | 乗客は「サンタ御一行様」 |
| 12月 21日 | 金 | 新聞 | 宇部日報 | 第 01 面 | 紙粘土で自分の顔 |
| 12月 21日 | 金 | 新聞 | 山口新聞 | 第 01 面 | 山口の冬彩るイルミネーション |
| 12月 22日 | 土 | 新聞 | 宇部日報 | 第 01 面 | 大震災から復興願う |
| 12月 25日 | 火 | 新聞 | 宇部日報 | 第 01 面 | きらめく光に包まれて |
| 1月 4日 | 金 | 新聞 | 宇部日報 | 第 02 面 | 常盤公園で古里満喫 |

表4 テレビ報道一覧

| 放送日時 | 曜日 | 放送局 | 番組名 | 記事のタイトル |
|---------|----|-----|-----------|---|
| 11月 21日 | 水 | KRY | KRY ニュース | ポスト |
| 11月 30日 | 金 | YAB | J チャンやまぐち | ちよるる (6:20)・共営社 (6:27)・ポスト (6:27)・宇部商業 (6:29) |
| 12月 1日 | 土 | TYS | 週末ちぐまや家族 | ポスト |

表5 ラジオ放送一覧

| 放送日時 | 曜日 | 放送時間 | 放送局 | 番組名 | 内容 | 出演者 |
|---------|----|-------------|--------|------------|------------|-------|
| 9月 4日 | 火 | 11:15~11:20 | FM きらら | Kikirarara | ギネスに挑戦について | 増田・藤永 |
| 11月 21日 | 火 | 14:40~14:50 | FM きらら | | ギネスに挑戦について | 増田 |

4. 2012年度の反省と今後の課題

4-1 ギネス記録挑戦

世界一大きな郵便ポストの設計～製作を行い、ギネス記録に登録に必要な条件を満たすため、ギネス記録挑戦イベントを行った。ギネス記録の更新に関しては現在申請中である。ギネス挑戦のイベントや、TOKIWA ファンタジア 2012 イルミネーションコンテスト開催中には大勢のお客さんが興味を示していた。ポストという形は誰が見ても分かりやすく来場者が親しみを持っていてくれたため、今後もアイディアを出す場合は認知度が高いものにすると良いようである。一方、デザインを現在設置されている主流の形状ではないため、ポストの形について疑問を持つ方が多かった。そのため、ポストの説明を示したものを作成する必要がある。

4-2 TOKIWA ファンタジア 2012 のイルミネーションオブジェ製作

TOKIWA ファンタジア 2012 のイルミネーションコンテストに出展する作品を製作した。来場者に対して仕組み等の理解を助けるパネルを用意していたため、ボタンに気づいて作品を楽しんでもらえている様子だった。しかし、中にはボタンに気づかずに素通りにされることが多々あったため、今後パネルをより目に付きやすくわかりやすいものにする必要性がある。

4-3 その他

12月1日のイルミネーション設置作業、点灯式、交流会では他大学・高専の学生とも直接交流することができた。イルミネーションオブジェの設置作業では、事前に役割分担を決めていたので発生した問題について担当者が臨機応変に対応を行うことができた。しかし、点灯式後の交流会に移るまでの段階で本団体の連携にミスが多く発生し交流会の進行が遅れた。今後は、点灯式や交流会などを含めた全体の流れに関する打ち合わせを入念に行うべきである。

5. まとめ

ものづくりを行う際に計画を行って進めていたが細かい考慮できていないことが多く、全体の見通しをあまり行うことができていなかった。また、メンバー内でも進行具合の理解度に差が大きかった場面も多かった。今後、プロジェクトを行う場合には定例会の回数を増やすことやメーリングリストでの情報共有の強化を行い、全体の状況把握を行う必要がある。状況把握の方法として作業ノートを作成したがあまり機能していなかったため、その改善が必要である。